

# 麓山の杜 みどり通信

発行 21世紀記念公園 麓山の杜管理事務所  
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17  
TEL 924-2194 FAX 924-2195

## 【園内の花壇の様子】

「四季の花壇」や「杜の花壇」に、夏から秋にかけて咲く花々が咲いています



## 【緑あふれるまちづくり事業】を実施

- ①みどり講習会・緑の教室を開催
- ②住宅を新築、購入した希望者のかたに苗木1本を記念樹として交付
- ③生垣設置助成金の交付（設置者申請）

◇夏期の記念樹交付及びみどり講習会は、ありませんが、記念樹交付の申請は受付しております。



## ガーデニングポイント

【水やり】梅雨明け後からの高温乾燥は、植物にとって受難となります。特に、今年植え替えた樹木はなおさらです。乾燥するとすぐにしおれてしまうので、根に届くように樹冠からたっぷり水をあげてください。水やりが特に大変なのは、梅雨明け後からです。日中を避けて朝晩の2回、根元と樹冠全体にあげるようにします。水をあげているのに、葉がしおれてきた??などの症状がでてきたら、試しに水やり後に土を掘り返してみてください。思ったより土や根に水が浸みこんでいないことがわかります。これでは、効果がありません。

【肥料】多くの樹種は、この時期には必要ありません。あげると逆に根を傷めてしまうこともあります。

【病害虫防除】今月末には、アメリカシロヒトリが2回目の発生をします。1回目はあまり発生を見ませんでした。このまま終わるかは不確定です。

このようなイモムシ類（ケムシ）は、発生初期に拡がらないうちに退治します。夏咲きのムクゲやサルスベリには、アブラムシやカイガラムシが付いているのを多く見かけます。そのままにしていると「すす病」が併発し、とても酷い状態になってしまいます。そして、「うどんこ病」がサルスベリやハナミズキなどには出ています。葉の表面に、白色のうどん粉のようなカビが生え秋まで発生します。どちらも

## 猛暑に耐えて植物は育ちます

病気が進むと早期に落葉し、樹勢が弱ってしまう事もあります。カエデ類は、カミキリムシの被害を受けて枝枯れもしています。

農薬の散布は、少ないのに越したことはありません。それには、植物を丈夫に育て病害虫の予防と早期の対応をすることが大切になります。それでも散布するようになった場合は、どんな薬剤でも用法用量をきちんと守って散布します。

【下の写真】は、カミキリムシが食害した痕です。



【剪定】月遅れのお盆前に剪定をしてスッキリさせてお盆を迎えたいと思うところですが、猛暑に耐えていく植物の立場で作業をしなければなりません。常緑樹は、次の新芽が出るように剪定をします。また、混み過ぎた内側の枝や徒長枝を切ることで、風通しを良くして病害虫の防除をします。落葉樹は、徒長枝を切る

程度にして、風通しを良くして病害虫の防除をします。どの樹種も切りすぎると、これからの夏の暑さに耐えられずに弱ってしまいます。剪定後には、水やりをして少しでも暑さから守ってあげます。

【植え替え】これからの時期は、暑さに向かうために適期ではないため、秋の彼岸頃まで待ちます。



【9月 みどり講習会日程】

タイトル	日時	内容	場所	定員
みどり講習会 記念樹の育て方初歩講座	9月13日(日) 10:00~12:00	・秋に植え替えの適期を 迎える植物について	とんがりふれあい 館ホール	・記念樹の申請者 ・受講希望者

【自然再生と生物多様性】

自然再生士という資格があります。その地域で失われた自然を再生し、取り戻すことを主眼にしています。今の時期であれば、蛍が飛び交う水辺をもう一度作ることも一例です。私達の周りには、里山という人間と大自然が共存してきた野山や耕作地が存在してきましたが、現在は姿を消しつつあります。以前は、そこに存在しなかった動植物がはびこり、棲みついているのが現状です。

私達が、色々な植物を植えたり生き物を捕ったりして楽しんでいることが、自然の生態系を乱しているのかもしれない。



【街で見かけた植物】

【アオハダ（青肌）】（モチノキ科モチノキ属）

郡山市近郊の山でも見かける落葉広葉樹です。北海道から九州まで自生している高木で、樹皮は灰白色でなめらかです。その表皮を剥がすと緑色の内樹皮が見えます。そこからアオハダという名前になりました。株立ちの木が、雑木の庭に好んで植えられています。雌雄異株で雌木は、赤い実が今月末頃から楽しめます。秋遅くに葉は黄色に色づきます。移植した木は、その後の水やりなどを怠ると枝枯れがしやすく、葉もまばらになってしまう場合が多くあります。赤玉土で植えると傷みが少ないようです。



\*\*\* みどりのつばやき \*\*\*

先月号に書きましたが、明治神宮の森の成り立ちをテレビ放映されていました。今の姿から、原野に造られた森とは想像もつきません。都心なのに希少動植物がそこに息づいていることが、さらに感動します。郡山も夏は暑いですが、それ以上に都心は夜間になっても気温が下がらないヒートアイランドとなっています。しかし、この森の中は温度が低いのです。緑の持つ力に今更ながら感服します。

